

# 呼吸器外科

部長  
兼呼吸器センター長  
**土井 貴司**

## 呼吸器外科ご紹介

2023年4月より赴任した土井貴司が診療を行っています。肺がん診療が専門になりますが、気胸、膿胸、縦隔腫瘍、胸部外傷も対応しています。火曜日は手術日で、水曜日と木曜日が外来、金曜日に気管支鏡検査を行っています。現在のところ、マンパワー不足があり、連携している大阪大学医学部附属病院呼吸器外科から手術応援に、泉南新家クリニック吉野谷清和先生には気管支鏡の応援をいただいております。以下、当院呼吸器外科がどのような診療を行っているかを具体的に述べます。

### 1 肺がんの手術

手術は年間60〜80件を行っています。手術前には外来で採血、胸部X線、心電図、呼吸機能検査、CT、必要ならPET（他医療機関）や頭部MRI、心エコーなど多くの検査を行い、がんのステージや耐術能を評価します。また喫煙している方には手術まで1か月の禁煙期間をお願いしています。治療方針については、本人および家族と複数回、話し合ったうえで外来看護師もまじえて決定しています。月曜日に入院して火曜日に手術を行い、クリニカルパス※にのせて術後7〜10日の入院で退院になります。手術は完全胸腔鏡下手術を基本としています。最近の胸腔鏡は画質が良好で、創部が小さいため、術後疼痛が軽減し、回復や社会復帰を早めることが可能です。手術創は前胸部と肩甲骨下に3cmの創が2か所、0.5cmのカメラポート1か所のあわせて3か所の創で、肺



▶胸腔鏡手術の様子

部分切除術（手術時間1.5時間）から肺葉切除術（4時間）まで行っています。肺がんの場合、半数の症例は手術までに確定診断にいたっていないため、病理検査科で術中迅速細胞診や組織診を行い、肺の切除術式やリンパ節の郭清範囲を決定します。肺葉切除の場合には集中治療室にて術後観察を行い、リハビリテーション科から理学療法士の往診で早期の呼吸機能及び体力の回復をはかっています。退院後は4か月から半年のペースで採血、CTでチェックしながら、5年間の経過観察を行います。

### 2 気管支鏡検査

気管支鏡検査は毎週金曜に1〜2件、1泊2日のクリニカルパス入院で行っています。近年は末梢型肺がんが多く、組織採取のためには透視のみでなく超音波観測装置やCTによる気管支バーチャル画像を用いて、より正確率の高い検査を行っています。とくに最近では良悪の鑑別のみでなく、悪性の場合にはがん遺伝子検査やPD-L1検査によるPrecision Medicine※が要求され、採取したがん組織の質や量が問われるため、器具の更新のみならず手技の向上もはかっています。



▶気管支鏡検査の様子

### 3 化学療法、放射線療法

肺がんが難治性がんといわれる所以にはステージⅠであつても術後再発がみられる点にあります。このため術後補助療法のみならず、再発症例もふくめて当科で化学療法を行っています。肺がんにおける化学療法は通常の抗がん剤、分子標的薬、がん免疫薬と種類が多く、治療の順番や組み合わせ、投与方法、副作用が複雑で、毎年、がん診療ガイドラインが改訂されているため、常に最善の治療が届けられるようにしています。また高齢者や低肺機能例による手術適応ではない症例については当院放射線治療センターに相談のうえで外来での放射線治療を行っています。

### 4 他科との連携

当然ながら呼吸器外科は呼吸器疾患のすべてを網羅できないため、当院の肺腫瘍内科、呼吸器内科（非常勤医師3名）、外科（消化器外科、乳腺外科）とは毎週のカンファレンスや連絡を取り合うことで診療の質を確保しています。また緊張性気胸、気道出血などの緊急時には当院救命診療科にも対応をお願いすることがあります。

### 5 今後の課題

地域医療センターより紹介される肺がん患者のうち、ステージⅢやⅣの割合が高いことに危惧しています。一般的に手術ができる肺がんの初診患者は半数程度と言われていますが、泉州地区では3割程度でしかありません。手術適応があっても80代と高齢であり、なかには現在も喫煙中の患者さんがみられます。背景には職域健診をのぞいた肺がん検診の受診率の低さ、喫煙率の高さが原因のひとつと考えています。その一方で呼吸器疾患をあつかう医師が少ないことも、発見が遅れている遠因になっています。このような問題に対して何らかのかたちで関わり、微力ながら地域に貢献できるように努めてまいります。

※クリニカルパス…

治療や検査に対して、標準化された実施内容や順序を入力したスケジュール表

※Precision Medicine（プレジジョンメディスン）…遺伝子情報・生活環境やライフスタイルを考慮して個人レベルで最適な治療方法を分析・選択すること。

### Profile



**土井 貴司**  
(どい たかし)

日本外科学会専門医  
日本呼吸器外科学会専門医  
日本呼吸器内視鏡学会専門医

2007年4月  
箕面市立病院 外科 医員

2017年4月  
大阪はびきの医療センター  
呼吸器外科 副部長

2020年4月  
国立病院機構 大阪医療センター  
呼吸器外科 医長

2023年4月～現在  
りんくう総合医療センター  
呼吸器外科 部長 兼呼吸器センター長